

## ■ 事業例

基本方針① 松本市のファンづくりと愛着を持って働く人の増加		短期	中期	長期
「短い市民」「松本ファン」の増加	旅行者に対する満足度調査の実施	○		
	松本市のファンを増加させる仕組み作り		○	
	ふるさと納税等の活用	○		
	フィルムコミッション・スポーツコミッションの強化	○		
労働力不足を補うための施策の検討	労働力定着・確保のための仕組み作り		○	
	副業人材の採用・業務分業・短時間勤務による雇用促進の検討		○	
	労働生産性の調査	○		
地域住民・事業者のウェルビーイング向上	地域住民・事業者を対象とした観光に関する満足度調査の実施	○		
	小中学校や大学等での学習や連携を通じた地域観光人材の育成		○	
	地域住民を対象としたモニターツアーの実施	○		
	地域住民への観光の地域貢献の取組みの情報発信	○		
	従業員の満足度向上に向けたセミナー促進事業		○	
ガイドの育成	自然・文化等の知的好奇心・探求心に応えられる有料ガイドの育成	○		
	市内全域及び周辺地域を案内可能なスルーガイドの育成	○		
基本方針② 定量データの活用と積極的なDXの導入				
継続的なデータ収集と分析	旅行者調査の分析と統計整備	○		
	市内宿泊施設と連携したデータ取得・分析ツールの仕様検討と開発・実装			○
冬季観光の強化による需要平準化	年間を通じて楽しめるモデルコースの検討・造成	○		
	冬季の観光コンテンツの検討・造成	○		
オーバーツーリズム対策	高単価コンテンツ・プランの検討・造成	○		
	変更価格制の導入の検討		○	
	松本城・上高地への一極集中化解消に向けたコンテンツ開発やモデルコース造成	○		
観光DXの導入	キャッシュレス・オンライン予約環境整備	○		
	ICTを活用した業務効率化・省人化・無人化推進		○	
基本方針③ 多様な旅行者を受け入れ資源を未来に残す取組みの推進				
ゼロカーボン・SDGsの推進	旅行者によるカーボン・オフセットの整備・推進		○	
	乗鞍エリアのゼロカーボン推進	○		
	観光関連施設でのSDGs対応	○		
文化観光の推進	文化資源の保護と文化資源を活用した情報発信及び都市文化の磨き上げ	○		
交通の整備・利用促進	信州まつもと空港の利用促進	○		
	バスや自転車等の二次交通の整備及び利用促進、二次交通を活用した周遊促進	○		
	MaaSや新たな交通手段を用いた実証事業			○
多様な旅行者の受入環境整備	高齢者、障がい者、LGBTQ、ムスリム等に対応するための受入環境整備・改修	○		
	多様な食習慣に対応するための新たなメニュー開発や受入環境整備	○		
観光関連施設等の管理・改修	観光関連施設、駐車場、駐輪場等の整備・管理・改修	○		
	インバウンド受入に向けた観光関連施設の多言語化等の受入環境整備	○		
	自然環境と生物多様性の保全や登山道・遊歩道の整備	○		
自然災害などのリスク管理強化	安全な観光地づくり・環境整備		○	
	災害時における旅行者に向けた情報発信手段の構築		○	
基本方針④ 的確なターゲットに向けた市が一体となった情報発信				
情報発信の一元化	既存の情報発信主体の一元化	○		
観光関連団体及び事業者等との連携強化・情報共有	情報発信プラットフォームを活用した効果的な情報発信		○	
	地域一体となったMICE、教育旅行の誘致強化	○		
	国内外の大規模イベント・催事・商談会への出展	○		
	観光事業者との継続的な情報共有の場の運営	○		
誘客プロモーションの強化	市内イベントの実施	○		
	国内誘客プロモーションの実施	○		
広域連携事業の推進	関連自治体や広域観光連盟等との連携強化	○		
	交通事業者との連携強化	○		
基本方針⑤ 観光組織の体制強化と量から質へのシフト				
観光組織の体制強化とプロ経営者の登用	松本観光コンベンション協会の体制強化とアクションプランの策定	○		
	市街地、西山、東山の連携強化	○		
	官学連携による観光地域マネジメント人材の育成	○		
	新しい企画を推進するプロ経営者の登用	○		
法定外目的税導入の検討	宿泊税等の導入の検討		○	
新たな観光コンテンツの造成	新たな観光コンテンツの検討・造成及び既存コンテンツの掘り起こし	○		
	食を活用した観光の推進・生産者とのマッチングシステムの検討			○
インバウンドの受入強化	戦略的ターゲット設定と、それに合わせた受入環境の整備	○		
	多言語メニュー作成の支援	○		
	インバウンド向けプロモーションの実施	○		

# 松本市観光ビジョン〈概要版〉（案）

## ■ 計画の策定背景と目的

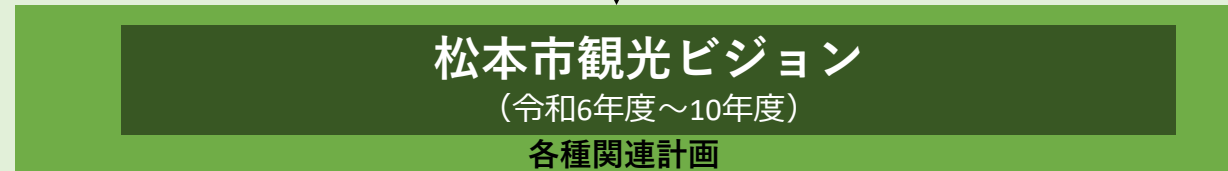
少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響、デジタル技術の進展と社会のDX化、ゼロカーボンに向けた取組み、松本観光コンベンション協会の組織見直し、新博物館の開館等、松本市の観光を取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。

これらの観光に対する需要や価値観の変化を踏まえて、松本市の産業の大きな柱のひとつである「観光」の目指したい姿を改めて設定し、観光に携わる地域事業者、地域住民、観光関係団体等、全てのステークホルダー間で目標達成に向け一体感を持って取り組むために「松本市観光ビジョン」を策定するものです。

## ■ 計画の位置付け

「観光」は、松本市の交流人口を増加させ、地域の活性化に大きく寄与するものであり、飲食業、宿泊業、交通業、製造業、小売業、娯楽業等、幅広い産業に恩恵をもたらします。

本ビジョンは、上位計画である松本市総合計画（基本構想2030・第11次基本計画）及び各種関連計画の内容を踏まえ、様々な関連産業と連携しながら、松本市全体が一体となって推進していきます。



- ・松本市美ヶ原再生計画
- ・松本市商業ビジョン
- ・松本市文化芸術推進基本計画
- ・松本市都市計画マスタープラン
- ・松本市総合交通戦略
- ・第4次松本市環境基本計画
- ・松本城三の丸エリアビジョン

- 外部計画
- ・松本高山Big Bridge構想
- ・のりくら高原ミライズ
- ・松本高山高付加価値な観光地づくり事業マスタープラン

## ■ 計画の期間

本ビジョンの計画期間は、令和6（2024）年度～令和10（2028）年度までの5年間とします。計画期間の間年と最終年において評価・検証を行い、必要に応じて、事業計画や数値目標の見直しを行います。



令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
本ビジョンを策定し、関係者への周知と協力・連携を促します	ビジョン開始、ビジョンを反映した事業案を立案	ビジョン実行フェーズ	評価・検証を実施し、事業計画や数値目標を調整	必要に応じて事業を変更しつつ、計画を推進	最終評価・検証を行い、次年度ビジョンを策定

# 松本市観光推進キーワード

## 市内全体での連携強化

松本市は大きく分けると、松本城を中心とした市街地エリア、上高地などを中心とした西山エリア、美ヶ原高原などを中心とした東山エリアの3つのエリアに分けることができる。それぞれのエリアに魅力的な観光資源が溢れているが、エリアを超えた周遊が少ない状況。また、行政、観光協会、観光関連団体、観光事業者など関係者が多岐にわたるため、情報共有や連携が不足しており、今後はエリアや所属を超えた情報共有や連携強化が必要

## 観光産業の担い手・働き手不足

松本市の人口は、平成14（2002）年の244,603人をピークに減少傾向が続いており、それに連動する形で観光産業の担い手・働き手不足も年々深刻化している。産業の持続、環境の保全整備、より良いサービスの提供のためにも、人手不足に対する対策が急務

## 冬季期間の観光需要の落ち込み

松本市の大きな観光課題の一つに、冬季期間の観光入込客数の落ち込みがある。年間を通じて安定した需要を保つことは雇用の安定にもつながるため、周辺地域との連携強化や、冬季に楽しむことができる新たな観光コンテンツの創造による誘客、さらには冬季の来訪意向の高い訪日外国人旅行者の誘客強化などの施策が効果的と考えられる。

## 歴史・文化・芸術・環境・産業の持続可能性

松本市には「3つのガク」、自然の「岳」、文化・芸術の「楽」、学びの「学」があり、「三ガク都」の愛称で多くの人に親しまれている。その3つのガクと深い関係を持つ観光産業、そしてそれに関わる人材、観光資源、それら全てを未来に継承するため、持続可能性を重要な視点と捉え、実効的な事業の推進が必要

## 高付加価値化・量から質へのシフト

人口減少が課題となっているのは松本市だけではなく、日本全体の課題でもあるため、絶対的な国内旅行者数は減少している。また、大型連休に集中して大勢の旅行者を迎え入れる昭和型の観光産業スタイルでは、旅行者の高い満足度は得られない。今後はそうした社会背景の変化やニーズの変容に対応するため、周遊及び滞在促進や単価向上による旅行者一人当たりの消費額増加、より消費額の大きいターゲットへの訴求などが必要

## 観光産業全体でのDX化

人の手によって提供されるサービスが中心の観光産業においても、今後はテクノロジーの力を導入し、省人化・無人化を進めるとともに、情報共有の高速化が必要。また、関連団体と連携したデジタルマーケティングや、キャッシュレス化の推進、山岳情報、災害危機管理情報の発信力強化、充実も必要

## 訪日外国人旅行者の受け入れ促進

訪日外国人旅行者による消費額は増加しており、観光地を訪問するだけのモノ消費から、その観光地での体験を求めるコト消費への転換が見られ、松本市が有する自然・文化・歴史といった豊富な観光資源は大きな魅力となる。人口減少が今後も続くことが予想されている中、国内旅行者の減少を補うため、ターゲットを明確にしたインバウンド誘客や受入整備が必要。

## 交通手段の充実化と利用促進

松本市を訪れている国内旅行者の多くが、交通手段としてマイカーを選択し、市内の移動にもマイカーを使用するため、「渋滞」や「駐車場不足」などの課題を抱えている。二酸化炭素排出量の削減のためにも、今後は公共交通機関を使った来訪促進及びバスやシェアサイクルの整備強化や利用促進をする必要がある。また、信州まつもと空港の就航先都市とその近隣都市をターゲットとしたプロモーションも継続していく。

# 観光ビジョン

## あなたと“いきたい”まち

### ～繋がる・触れる・彩る 松本～

私たちの誇りである大いなる自然と文化は、日常生活に溶け込み、心に根ざし、次の世代へと繋がっていく。

このまちに住んでいる人と、集う人が、互いの日常に触れ、幸せを感じることで、大切な人とまた行きたいと思う。このまちで共に生きていきたい。

その循環によって、このまちをさらに彩り豊かにしたい。

それが私たちの願いであり、目指したい松本の姿です。

## 数値目標 基準値

国内旅行者旅行満足度	68%
外国人旅行者旅行満足度	88%
国内旅行者1人当たり観光消費額	宿泊 30,652円 日帰り 7,475円
外国人旅行者1人当たり観光消費額	宿泊 44,021円 日帰り 16,501円
国内旅行者年間宿泊者数	1,549,830人泊
外国人旅行者年間宿泊者数	187,959人泊
観光入込客数	5,099,274人

## 目標値

国内旅行者旅行満足度	+10.0% 75%
外国人旅行者旅行満足度	+3.0% 90%
国内旅行者1人当たり観光消費額	+5.0% 宿泊 32,200円 日帰り 7,800円
外国人旅行者1人当たり観光消費額	+5.0% 宿泊 46,200円 日帰り 17,300円
国内旅行者年間宿泊者数	+10.0% 1,705,000人泊
外国人旅行者年間宿泊者数	+30.0% 244,000人泊
観光入込客数	+6.0% 5,405,000人

# 基本方針

## 基本方針①

～ひろく～

松本市のファンづくりと愛着を持って働く人の増加

## 基本方針②

～かわる～

定量データの活用と積極的なDXの導入

## 基本方針③

～すすめる～

多様な旅行者を受け入れ資源を未来に残す取組みの推進

## 基本方針④

～とどける～

的確なターゲットに向けた市が一体となった情報発信

## 基本方針⑤

～かせぐ～

観光組織の体制強化と量から質へのシフト

# 施策の柱

- ① 「短い市民」「松本ファン」の増加
- ② 労働力不足を補うための施策の検討
- ③ 地域住民・事業者のウェルビーイング向上
- ④ ガイドの育成

- ① 継続的なデータ収集と分析
- ② 冬季観光の強化による需要平準化
- ③ オーバーツーリズム対策
- ④ 観光DXの導入

- ① ゼロカーボン・SDGsの推進
- ② 文化観光の推進
- ③ 交通の整備・利用促進
- ④ 多様な旅行者の受入環境整備
- ⑤ 観光関連施設の管理・改修
- ⑥ 自然災害等のリスク管理強化

- ① 情報発信の一元化
- ② 観光関連団体及び事業者等との連携強化・情報共有
- ③ 誘客プロモーションの強化
- ④ 広域連携事業の推進

- ① 観光組織の体制強化とプロ経営者の登用
- ② 法定外目的税導入の検討
- ③ 新たな観光コンテンツの造成
- ④ インバウンドの受入強化